

# 烽火

No. 25

(関西) 共産主義者  
同盟政治機関紙

編集発行人・岡 誠  
連絡先・京都市左京区  
一乗寺釈迦堂町8  
西沢昭昌方 岡 誠  
TEL 京都 6789  
料 金 半年分(12回)  
200円 (郵送料込み)

## 韓国学生デモの闘い支持!

## 春闘に日韓会談粉碎の

## 闘いを結合させよう!

### 韓国学生デモと日韓闘争の新たな局面

#### 一、韓国学生デモを断乎支持せよ

三月四日に始まった韓国学生デモは、長期的な、全階級の闘いに発展しようとしている。六〇年四月、李承晩独裁政権の専横に對して、直接的には不正選挙に對する民主主義的要求をもって立ち上った四・一九学生蜂起は、反帝民族革命闘争として発展することとなり、韓国における補足的な民主主義革新の役割を果しつつも、民主共和制に集約され、青年將校を代表した政權の登場に對して闘い得なかつた。そして、昨年の四・一九記念日には、部分的な抵抗が試みられたが、全体としては村に集約された。しかし、韓国経済の進行と急激な日本帝國主義の侵略と抑圧の進行は、学生層の断乎とした「韓国屋敷外交阻止」「日本帝國主義打倒」の大众的な組織的闘いが展開された。この韓国学生層の闘いは、日本における日韓闘争の停滞に對して、日韓阻止闘争の新しい局面が開かれた。が、このことは同時に、現在日本の階級闘争に潜在的に進行している労働者階級の分裂の矛盾が急速に登場する中、仏の中共承認に直接に表れてくる市場競争の激化が、民社一同盟に典型的な排外主義の性格をもつて登場するであろう問題

#### 二、韓国人民の闘い

三月二〇日の日本の学生、労働者の羽田に對する闘い、二二日の在日韓學同の金鐘秘との意見ひきつづき、韓国では二四日以降、市民をももたした学生デモが闘われている。二四日ソウル学生連は学内事務会次の五項を決議したといわれる。

- 1、赤衛的日韓交渉を直ちに中止し、赤衛的政治家は東京から即時帰国せよ。
- 2、平和線(李ライン)を犯す日本海軍を撃滅するため海軍を出動せよ。
- 3、韓国に上陸した日本兵を日本の手先を直ちに追放せよ。
- 4、親日韓国資本家を徹底的に殺せよ。

そしてこの闘いは、以上のような正に自然発生的な激しい闘いの中で形成されるべきなこのスローガンが、デモに先立ち決議されたこととは、この運動が、かなり組織的なものであること、そ

#### 三、韓国情勢と日本帝國主義の侵略

韓国資本主義は、今世紀初頭以来の日本帝國主義の侵略と支配の中で、一方における資本主義化、封建的農業生産の崩壊、階級闘争の激化(失業者)の形成、他方における資本主義化、原始的蓄積過程(民族資本家への富の集

年	対日輸出(億ドル)	対日輸入(億ドル)	貿易差(億ドル)
45'	9	1: 0.15	(ホアン)
50'	11	1: 0.25	
53'	2	1: 60	
55'	8	1: 500	
60'	1	1: 650	
61'	2	1: 1300	

## 三月全自代の成果の上に 日韓会談粉碎を闘い抜け!

社学同関西地方委員会

三月五日全自代は、京都府学連と京都府学連の呼びかけの下に開催され、参加校五二(北海道、東北、関東、東京、静岡、中国、九州)参加者約三百名という大衆的規模をかちとつた。それは、日韓会談をめぐる情勢の緊迫に對して、全自代の闘争でもって反撃せんとする意志を統一したものと見て、意義深い大会であつたといわなければならない。この日は、我々が戦後第三の転換期の開始を象徴するものとして位置づけ、新しい波と表現した地方的孤立分散的闘争が、より巨たな日韓会談阻止闘争へ結合されたことは重要である。

また、この大会を準備し、かつ、闘争の当事者となつた諸組織があつたという事実はきわめて教育的である。マル同全学連による安部闘争の遺産のくいつぶしに對して、日ソ連の遺産の正当な継承性を追求し、その中で思想的、組織的に成長をはかつてきた我々の階級が、最も正当であつたことの証左である。しかしながら「革マ

四・一七統一ストは、公務員、自衛隊も直接スト抑圧への介入の特別委員会を設置している。このことは、職場労働者の不満と闘いを、政治権力の弾圧によって一挙に葬り去り、労働運動を西歐化(全労化)することを意味している。これは現実の資本の攻勢を圧縮、統合したものに他ならない。日本共産党のストライキ反対の活動(九日アカハタ名、一〇の全日二百七トラマキ)は、資本の権力の労働運動の徹底的抑圧の一翼である。日和見主義とは、緊迫した情勢と闘いの決定的時点に對して、資本家階級の支配を支えることである。日共の立場は、職場で徹底的に打ち砕くことである。資本家階級の政治委員会である政府は、四・一七ストを抑圧するために緊急の強圧体制をしき、

## 四、日本労働者人民の任務

以上の如く日韓会談反対闘争は新たな局面を迎えている。尤も、韓国人民の闘いは、日本労働者人民の闘いに対する日韓会談阻止の闘いを抜きに、日本帝國主義の侵略に對して勝利することはできない。またこの闘いが韓国人民の自然発生的な闘いの前に、敵の金策と彼らの闘いの方向を益々明確にする。したが、IMF八条国移行の政府

四・一七統一ストは、公務員、自衛隊も直接スト抑圧への介入の特別委員会を設置している。このことは、職場労働者の不満と闘いを、政治権力の弾圧によって一挙に葬り去り、労働運動を西歐化(全労化)することを意味している。これは現実の資本の攻勢を圧縮、統合したものに他ならない。日本共産党のストライキ反対の活動(九日アカハタ名、一〇の全日二百七トラマキ)は、資本の権力の労働運動の徹底的抑圧の一翼である。日和見主義とは、緊迫した情勢と闘いの決定的時点に對して、資本家階級の支配を支えることである。日共の立場は、職場で徹底的に打ち砕くことである。資本家階級の政治委員会である政府は、四・一七ストを抑圧するために緊急の強圧体制をしき、

